

◆ 編集後記 ◆

- 最初はいろいろな困難が予想されたのですが、どうにかここまでこぎつけたことを編集メンバーのひとりとして喜びたいと思います。4月12、13日の編集メンバーおよび会員による最後のまとめの泊まり込みは、ハプニングの続出という少なからず異様な状態の中で、あくまでも虫屋らしく、少し世間ずれしながらも成功裡に終ったのではないかと思います。お互いの自然に対する探究心とこれからの活動の発展を期待します。（きまぐれるりつばめ）
- 年々、仕事、学問が忙しくなり、新たに就職、結婚する輩もいたりで、例年以上にもどかしい思いを強くするなかで、清書・編集・校正を複数のメンバーが分担し、まとめの段階で一堂に会し、共に力を合わせて完成までこぎつけた第4号。寄稿数も編集メンバーの努力に伴ない増加の徴しをみせ始めているようで、今後のIRATSUMEの発展に希望の灯が見えてきたと云えそうです。とにかくこれで暫くは雑務から解放、よかった、よかった。
（25才になったばかりのボツ）
- 「どや、イシダ？」 「ハ、しんどいです。」
「これが出るのが楽しみです。」 「ンガァー……」 （2人こまわり）
- 高橋匡先生から昨年いただいた「但馬地方昆虫目録」をようやく載せることができました。これを土台にして積み重ねていってほしいという先生の御意向に沿った努力を、これからの会誌に反映させていきたいと思ひます。西村先生には御無理をお願いして書いていただきました。先生は、普通種の研究を仕事にするという信条で、永年にわたって水生昆虫の生態を追い続けられています。会員諸氏の中から、地道な研究が生まれてくることを期待します。安達留二郎、橋本陽樹両氏からは但馬の海岸付近の知見を報告していただきました。海岸付近の昆虫相は今まで記録が乏しく、興味深いものがあるようです。編集メンバーの一部には、手抜きがあったようですが、会誌が途絶えぬようやっていたらと思います。（いんこう的ぞくら）

IRATSUME 第4号 1980年5月5日発行 発行者・但馬むしの会
 編集 足立義弘 石田達也 遠藤知二 谷角重彦 協力 柴田正一 橋本陽樹
 連絡 〒668 兵庫県豊岡市 木下賢司